

## 第1章 有田市の概要

### 第1節 市のあらまし

市の誕生 昭和31年5月1日

世帯数 11,740世帯

人口 27,988人

面積 36.83平方キロメートル

概要 本市は、和歌山県の北西部、有田川の河口に位置し、北は海南市、東は有田川町、南は湯浅町と境を接し、西は紀伊水道に面しています。

市域は、東西約10.5キロメートル、南北約5.5キロメートルで、沖ノ島などの島々も含まれています。

紀伊水道に注ぐ有田川を中央にして、南北をみかん山に囲まれ、また県下有数の漁港を有すると同時に、県北部臨海工業地帯の一角をなす複合産業都市として発展しています。

表1 人口及び世帯の推移 (平成31年3月31日現在)

年 度	総 数 (人)	世帯数 (世帯)	1世帯当たり人数 (人)
昭和30年	30,382	6,217	4.89
昭和40年	33,530	7,925	4.23
昭和50年	34,865	9,028	3.86
昭和60年	35,401	9,515	3.72
平成7年	34,283	10,187	3.37
平成14年	34,540	11,203	3.09
平成15年	34,320	11,260	3.05
平成16年	34,080	11,264	3.03
平成17年	33,803	11,308	2.99
平成18年	33,443	11,401	2.93
平成19年	33,056	11,463	2.88
平成20年	32,665	11,520	2.84
平成21年	32,252	11,594	2.78
平成22年	31,993	11,684	2.74
平成23年	31,575	11,738	2.69
平成24年	31,311	11,837	2.65
平成25年	30,871	11,838	2.61
平成26年	30,505	11,909	2.56
平成27年	30,071	11,901	2.53
平成28年	29,578	11,897	2.49
平成29年	29,107	11,882	2.45
平成30年	27,988	11,740	2.38

## 第2節 工業の概要

表2 年次別工業の概況（従業員4人以上の事業所）

年次	事業所数	従業員数 (人)	年間材料使用額 (万円)	年間製造品出荷額等 (万円)
平成13年	85	2,099	30,203,225	54,938,145
平成14年	73	2,001	26,820,193	44,031,284
平成15年	90	2,031	22,721,568	42,832,970
平成16年	71	1,783	31,568,705	51,421,300
平成17年	83	1,935	50,752,123	72,043,760
平成18年	74	1,807	50,805,846	69,396,119
平成19年	71	2,096	64,336,441	79,314,734
平成20年	73	2,049	57,172,376	69,697,581
平成21年	63	1,866	37,152,508	48,444,421
平成22年	60	1,979	44,123,648	65,556,427
平成23年	71	2,042	49,922,739	70,950,505
平成24年	68	2,024	53,051,580	70,120,847
平成25年	64	2,029	60,736,110	74,543,332
平成26年	65	2,171	56,108,225	64,450,553
平成27年	73	2,237	39,505,635	47,764,590
平成28年	61	2,208	29,313,646	47,636,290
平成29年	56	2,293	34,104,310	43,750,963

表3 産業分類別製造業集計結果（従業員4人以上の事業所）（平成30年6月1日現在）

産業分類	事業所数	従業員数	材料使用額 (万円)	製造品出荷額等 (万円)
総数	56	2,293	34,104,310	43,750,963
食料品	15	418	556,985	378,590
飲料・たばこ・飼料	2	127	-	-
繊維工業	7	68	27,006	26,859
パルプ・紙・紙加工品	1	27	-	-
印刷・同関連業	1	9	-	-
化学工業	4	266	540,884	610,871
石油・石炭製品製造業	1	465	-	-
プラスチック製品製造業	2	28	-	-
ゴム製品製造業	4	619	666,071	479,937
窯業・土石製品製造業	2	20	-	-
非鉄金属製造業	1	27	-	-
金属製品製造業	6	80	168,968	75,693
はん用機械器具製造業	4	78	26,056	62,233
生産用機械器具製造業	3	21	15,072	43,590
電気機械器具製造業	0	0	-	-
その他の製造業	1	40	14,528	17,530

（資料：工業統計調査 平成29年地域別統計表）

### 第3節 用途地域別面積等

表4 (平成31年4月現在)

用途地域	面積(ha)	構成比(%)	市面積比(%)
第一種中高層住居専用地域	74.6	11.9	2.0
第一種住居地域	243.8	38.9	6.6
第二種住居地域	26	4.1	0.7
近隣商業地域	30.3	4.8	0.8
商業地域	15.8	2.5	0.4
準工業地域	56.2	9.0	1.5
工業地域	8.1	1.3	0.2
工業専用地域	172.3	27.5	4.7
合計	627.1	100.0	16.9

表5

	面積	内農用地区域	面積比
農業振興地域	2,824ha	1,644ha	58.22%

表6 西有田県立自然公園有田市域面積 120ha

区分		規制	面積
特別地域	第一種特別地域	すぐれた風致を維持する必要性が高く、現在の景観を極力保護することが必要な地域	12ha
	第二種特別地域	良好な風致の維持を図るため、特に農林業活動については努めて調整を図ることが必要な地域	35ha
	第三種特別地域	良好な風致の維持を図ることが必要であるが、通常の農林漁業活動については風致の維持に影響を及ぼすことが少ない地域	73ha

### 第4節 生活環境行政機構及び審議会等

#### 1. 生活環境行政機構 (平成31年4月1日現在)

図1



## 2. 生活環境課事務分掌・業務内容等

表7 生活環境課事務分掌・業務内容

○生活環境係	○清掃センター
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の処理及び清掃に関すること</li> <li>・ ごみ減量化、省資源化対策に関すること</li> <li>・ 小型家電リサイクルに関すること</li> <li>・ し尿及び浄化槽に関すること</li> <li>・ 清掃センターに関すること</li> <li>・ そ族、昆虫の駆除に関すること</li> <li>・ 放置車両、放置船舶に関すること</li> <li>・ 環境対策の企画及び調整に関すること</li> <li>・ 環境対策審議会に関すること</li> <li>・ 環境の美化に関すること</li> <li>・ 監視施設に関すること</li> <li>・ 公害に関すること</li> <li>・ 動物の保護及び管理に関すること</li> <li>・ 墓地、火葬場に関すること</li> <li>・ 有田聖苑事務組合との連絡調整に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般廃棄物の収集、運搬に関すること</li> <li>・ 粗大ごみ戸別収集及び運搬に関すること</li> <li>・ し尿搬送に関すること</li> <li>・ 公共施設の浄化槽（500人槽以下）の維持管理に関すること</li> <li>・ 廃乾電池の回収（市内39か所）に関すること</li> <li>・ 廃自転車の撤去に関すること</li> </ul>

## 3. 環境対策審議会及び委員名簿

有田市環境対策審議会は、市長の諮問機関として設置され、環境保全について必要な事項の調査及び審議を行います。

委員の任期は2年で、市長が委嘱または任命し、学識経験者、民間諸団体の代表者13人以内で構成されています。

表8 有田市環境対策審議会委員名簿（令和元年5月1日現在）

《委員任期：平成30年5月1日～令和2年4月30日》

役職名	氏名
有田市中央地区連合自治会長	児嶋 陽徳
有田市初島地区連合自治会長	中井 宏幸
有田市農業委員会会長	井笹 和弘
県立箕島高等学校教諭	嶋田 喬太
有田市農事研究会連絡協議会長	山口 敏夫
有田市保健センター保健師	梓谷 まりえ
有田市婦人団体連絡協議会	栗山 仁美
有田市漁業後継者対策会議会長	尾藤 勝徳
有田市4Hクラブ会長	藪内 晃幸
紀州有田商工会議所	前 頼雄
有田市民生児童委員協議会会長	森川 文夫
有田市婦人防火クラブ連絡協議会会長	宮下 せつ子
有田市母子寡婦福祉連合会会長	有本 芳子

## 第5節 環境調査の活動状況

本市では、快適で住みよい環境を保全するために、環境調査の実施を行っています。

- (1) 水質関係
- ① 河川水質実態調査 年2回 調査地点 9箇所
  - ② 工場等の排水調査 年4回 調査地点 1箇所
- (2) 騒音関係
- 環境騒音実態調査 年1回 調査地点 8箇所
  - 工場等の騒音測定立入調査 適宜
- (3) 振動関係
- 工場等の振動測定立入調査 適宜
- (4) その他
- 公害苦情処理 適宜

## 第6節 公害関係予算（決算）

表9 年度別決算 (単位：千円)

年 度	公害対策費	環境関係歳出決算額
平成10年度	47,944	305,325
平成11年度	48,199	327,146
平成12年度	43,511	329,721
平成13年度	45,218	395,946
平成14年度	37,568	387,918
平成15年度	41,656	365,351
平成16年度	40,211	354,724
平成17年度	35,733	366,392
平成18年度	41,857	341,641
平成19年度	48,939	342,356
平成20年度	48,368	304,408
平成21年度	48,643	302,656
平成22年度	47,370	303,963
平成23年度	47,009	296,984
平成24年度	49,586	304,273
平成25年度	39,500	288,110
平成26年度	45,798	282,211
平成27年度	36,984	277,816
平成28年度	36,884	263,058
平成29年度	38,591	269,463
平成30年度	35,090	318,497

## 第7節 有田市の自然環境

本市は、山と海に囲まれた自然豊かな地形に囲まれた街です。

山手では農業が盛んで、有田の特産品である有田みかんの段々畑が広がり、海手では水揚げ量日本一を誇る太刀魚をはじめとする漁業が盛んです。

有田市宮崎町の先端にある宮崎ノ鼻から広川町唐尾湾に至る海岸は、リアス式海岸となっており、和歌山県の県立自然公園に指定されています。

また、有田市野の立神社の社林も、和歌山県の自然環境保全地域に指定されています。

図2 有田みかん



図3 太刀魚モニュメント



図4 宮崎ノ鼻 ウバメガシ



図5 宮崎ノ鼻 キキョウラン



有田川河口では、多くの希少生物が生息しており、環境省により「日本の重要湿地 500」に選定されています。

表10 日本の重要湿地 500 選定

生息・生育域	生物分類群	選 定 理 由
有田川河口	底生動物	泥、転石、塩性湿地など多様な干潟環境をもち、極めて貴重とされるコゲツノブエの生息地。魚類、甲殻類、貝類の種の多様性が高い。

【出典：環境省「重要湿地」No355 有田川河口】